

内モンゴル自治区概況



目次

- 1. 基本概況……………1
- 2. 経済概況……………2
- 3. その他参考情報…6
- 4. 指導者の略歴……8

1. 基本概況

(1) 基本情報

面積	118.3 万㎡ (全土の約 12%)
人口	2,396.0 万人
都市化率	69.6%
人口自然増加率	-3.4%
65 歳以上人口比	15.4%

※人口、都市化率、人口自然増加率、65 歳以上人口比は 2023 年末時点

内モンゴル自治区は基本高原地帯で、多くが海拔 1,000m 以上のところにある。気候は、春になると

気温が急激に上昇し、強い風が吹く。夏になると気温の上昇に加えて雨が多くなる。秋には気温が急激に低下し、冬は非常に寒くなる。9月のフフホト市を例とすると、日中の最高気温は22度、最低気温は10度で、晴れが11日、くもりが10日、雨が8日となっている。また、夜間の平均気温は10度のため、服装としては長袖長ズボンがちょうど良い。

また、20年に実施された第7回全国人口国勢調査によれば、少数民族が同自治区に占める割合は21.26%で、そのほとんどがモンゴル民族である。10年実施の第6回全国人口国勢調査と比較すると、少数民族の人口は4.88%増加した。

(2) 歴史

内モンゴル自治区のエリアは、古代中国の北方少数民族が最も多く暮らしていた地域である。記録や文献によれば、この地にはかつて10以上の少数民族が暮らしており、北アジアで最初の遊牧国家を築いた匈奴（きょうど）、牧畜狩猟民族で匈奴衰退後に力をつけた鮮卑（せんび）、ユーラシアの東西に幅広く分布するテュルク族、半農半牧の契丹（きつたん）族、10世紀ごろから記録に現れ、17世紀に「満洲」と改称した女真族などがその代表例である。

中国語で使われている漢字の「蒙古」とは、かつてモンゴル民族が暮らしていた村落にそれぞれ名前があり、その中のひとつの名前である。時代の変遷の中で「蒙古」はモンゴル民族が暮らすエリア全体を指すようになった。

2. 経済概況

23年、内モンゴル自治区全体のGDPは前年から5.3%増加の2兆4,627億元であった。

産業別内訳では、第1次産業は全体の約1割を占め、GDPは前年比3.1%増、第2次産業は全体の約5割を占め、GDPは前年比3.1%増、第3次産業は全体の約4割を占め、GDPは前年比8.6%増となった。

項目	数値(区内の数値)
GDP	2兆4,627億元（前年比5.3%増） 第1次産業：2,737億元（同3.1%増） 第2次産業：1兆1,704億元（同3.1%増） 第3次産業：1兆186億元（同8.6%増） ※中国全体の23年GDP成長率は5.4%
1人当たりGDP	102,677元（前年比5.4%増）
平均可処分所得	都市住民：48,676元（前年比5.1%増） 農村住民：21,221元（同8.0%増）
実質外資利用額	8億ドル（前年比76.8%減）
輸出入総額	1,960.0億元（前年比28.6%増） 輸出総額：781.0億元（同23.9%増） 輸入総額：1,179.0億元（同31.9%増）
旅客輸送量	8,904万人（前年比117.0%増）

	鉄 道：5,060 万人（同 195.6%増） 幹線道路：2,478 万人（同 34.4%増） 民間航空：1,366 万人（同 149.7%増）
--	--

（1）インフラ

中国の各省、直轄市、自治区中で 3 位の面積を有する内モンゴル自治区はインフラ整備がすすんでいる。中心地フフホト市を通る鉄道、乗用車、飛行機を利用したネットワークが整備され、同自治区東の通遼から西の集寧南まで約 1000 km を 26 時間かけて結んでいる。その他、電気、水道、情報インフラも基本的に整備されている。

① 鉄道

鉄道に関しては在来線を中心に京包線（北京-包頭）、包蘭線（包頭-蘭州）、集二線（集寧-エレンホト）等がある。モンゴルの首都ウランバートルを經由し、シベリア鉄道へ合流する国際列車も出ている。2023 年 12 月時点での報道によると、高速鉄道は張呼高鉄（河北省張家口-フフホト）、新通高鉄（遼寧省新民-通遼）、喀赤高鉄（遼寧省朝陽市カラチン（喀喇沁）左翼モンゴル族自治県-赤峰）が開通している。また、包銀高鉄（包頭-寧夏回族自治区銀川）、集大原高鉄（ウランチャブ市集寧区-山東省大同・原平ほか）などが建設を開始している。

② 自治区内の道路整備

2023 年末までに、自治区内の道路総延長は 219,407km となり、そのうち高速道路は 7,863 km に達した。また、2023 年には 10,000Km を超える幹線道路の建設が開始し、国家高速道路の内モンゴル区間が全線開通、自治区東西高速道路は 2024 年に全線開通した。また、主要港がある満洲里市、エレンホト市が高速道路で繋がるなど、急ピッチで整備が進められている。

③ 空港

24 年末時点で、内モンゴル自治区が管轄する空港は、輸送空港が 16 か所、通勤空港（短距離区間用）が 3 か所、一般空港（非商用）が 23 か所ある。

（2）外資企業

内モンゴル自治区に登録されている外資系企業は 2023 年末時点で 3,284 社であった。

（3）日本企業とのかわり

・18 年、日本合成化学工業株式会社（現三菱ケミカル株式会社）と内蒙古双欣能源化工有限公司（本社：同自治区オールドス市）が汎用 PVOH 事業で提携することに合意し、両社は合併会社として高先雙欣有限公司（所在：香港九龍）を設立。21 年 1 月より、合併会社を通じて双欣製造の

ゴーセノールのグローバル販売を本格的に開始している。

・三井物産が電力や石炭開発、合金鉄、化学品、黄河引水等の事業を展開する民営企業「内モンゴルオールドス電力冶金集団股分有限公司」に 20%資本参加している。

（４）開発区について

21 年末時点で、内モンゴル自治区には 63 の開発区があり、そのうち省級開発区が 51 か所、国家級国家級経済技術開発区が 3 か所、国家級ハイテク技術産業開発区が 3 か所、保税區が 3 か所、その他が 3 か所である。

＜国家級経済技術開発区＞

- ・フフホト経済技術開発区（2000 年 7 月認可、面積 980 km²）
- ・バヤンノール経済技術開発区（2012 年 12 月認可、面積 433 km²）
- ・フルンボイル経済技術開発区（2013 年 3 月認可、面積 120 km²）

＜国家級ハイテク技術産業開発区＞

- ・包頭レアアースハイテク技術産業開発区（1992 年 11 月認可、面積 956 km²）
- ・フフホト金山ハイテク技術産業開発区（2013 年 12 月認可、面積 500 km²）
- ・オールドスハイテク技術産業開発区（2017 年 2 月認可、面積 1000 km²）

＜保税區＞

- ・満洲里総合保税區（2015 年 3 月認可、面積 144 km²）
- ・内蒙古オールドス総合保税區（2017 年 2 月認可、面積 121 km²）
- ・フフホト総合保税區（2018 年 9 月認可、面積 0.88 km²）

（５）新興産業（ビッグデータ）

ウランチャブ市は北京市と貴州省とならぶ国家ビッグデータセンター 3 大拠点のひとつである。同市は 16 年 10 月に「国家級ビッグデータ総合試験区」に指定され、北京は中央拠点、貴州省は南方拠点、ウランチャブ市は北方拠点となっている。キックオフミーティングでは当時の布小林主席も出席し、同自治区内における国家級設備のひとつである。

17 年 12 月には内モンゴル自治区政府が「ビッグデータ発展全体計画(2017 年-2020 年)」を発表し、20 年末までに国内をリードするビッグデータ企業 100 社を引き入れ・育成し、関連産業の規模を 1,000 億元へ拡大させるとした。また 18 年 2 月にはウランチャブ市政府とアップルとの戦略提携によりデータセンターが設けられたほか、アリババ、ファーウェイ、中聯利信などもデータセンターを建設した。

22 年 1 月に国務院が発表した「第 14 次五カ年計画デジタル経済発展計画」において「東数西算¹」プロジェクトの実施加速が盛り込まれ、内モンゴル自治区を含む 8 つの省・地域で国家計算力ハブノードの建設の開始に同意した。

¹ デジタルインフラの不均衡を改善するため、現在東部に集中するビッグデータセンターを資源豊富な西部へ配置する計画。西部地域に国家計算力ハブノードを建設し、東部地域の計算力ニーズおよびビッグデータを西部地域に送り、保存・計算・フィードバックを実施する。

(6) 対外経済

23年の内モンゴルの輸出入総額は1,960.0億円で前年比28.6%増となった。うち、輸出額は781.0億円で同23.9%増、輸入額は1,179.0億円で同31.9%増であった。また、一帯一路沿線国との輸出入総額は215億5,412万ドルで同136.0%増と、いずれも増加傾向にある。

(7) 内モンゴル自治区に本部を置く著名な企業

○蒙牛乳業集団

1999年創業の乳製品メーカー。W杯では2018年ロシア大会、22年カタール大会において、中国企業でメインスポンサーとなった4社で唯一食品企業として広告を出した。デンマークのアーラ・フーズやフランスのダノンと資本提携を行い、世界基準の品質管理に努めている。本部はフフホト市。

○伊利実業集団

1956年創業の乳製品メーカー。「伊利」ブランドとして、アイスクリーム、アイスキャンデー、粉ミルク、粉ミルクティー、ヨーグルト、チーズなど1000種類以上の商品を生産。2008年と22年の北京五輪ではいずれも公式スポンサーになったこともあり、中国での知名度は非常に高い。本社はフフホト市。

○オールドス集団

豊富な石炭資源を背景とした石炭火力自家発電の競争力を武器に、鉄鋼生産に必要なフェロシリコンなどの合金鉄事業、PVCの生産を軸とした化学品事業、黄河引水等を広く展開する民営企業。三井物産が20%資本参加しており、同社の中国での単独投資の最大案件。親会社は、世界最大のカシミヤメーカーであるオールドス・カシミヤ。

○内蒙古伊泰集団

1999年創業。石炭の生産・運送・販売をワンストップで手がけるほか、不動産開発や生態環境修復、そして有機農業などのクリーンエネルギー事業も手がけるグループ企業。2023年には中国企業トップ500の中で174位にランクインし、石炭関連企業トップ50では18位にランクインした内モンゴル自治区におけるリーディングカンパニーである。

○小肥羊

本社は内モンゴル自治区の包頭市にあり、1999年に創業。可愛い子羊のロゴでおなじみの大手火鍋チェーン。日本では2006年に渋谷店オープンを皮切りに、24年2月現在、21店舗を展開している。

3. その他参考情報

(1) 友好都市・姉妹都市

内モンゴル自治区のフフホト市は1987年8月に愛知県岡崎市と、同自治区赤嶺市は89年5月

に愛知県稲沢市とそれぞれ友好姉妹都市となった。

(2) 内モンゴル自治区の見所

○昭君墓（しょうくんぼ）

王昭君の墓。紀元前 33 年の前漢時代に、和親のため匈奴の王に嫁いだ 悲劇の美女。西施、貂蟬（ちょうせん）、楊貴妃と並び中国四大美女の一人に数えられる人物。

○内モンゴル博物館

古代生物化石、歴史文化財、民族文化財、そして革命遺跡の 4 種類の展示に分かれる。いずれも内モンゴルにゆかりのある展示物で、アジア最大の恐竜化石展示ともいわれる規模を誇る。

○フフホトモスク（中国語名：呼和浩特清真大寺）

観光地ではない非常に静かな場所にあるが、回族が日常的に礼拝を行う穴場スポット。周辺の静かな町並みを楽しむこともできる。

○グゲンドラ草原（中国語名：葛根塔拉草原）

フフホト市内から約 130km のところにある。観光地として高い人気を誇り、夏から秋にかけて深い緑の草原に覆われ、250 種類を超える花が草原を埋める。2008 年の日中経済協力会議の宿泊先の一つ。

○シラムレン草原（中国語名：希拉穆仁草原）

シラムレンはモンゴル語で「黄色い川」を意味し、フフホト市内から北におよそ 100km のところにある。近年では政府の支援もあり観光地として整備がすすんだ。

○フルンボイル草原（中国語名：呼倫貝爾草原）

付近のフルン湖とボイル湖からとって付けられた名前。モンゴル民族発祥の地といわれ、広大な草原が広がる牧畜区。フフホト市内から北におよそ 2000km のところに位置し、ロシアに近接している。

○フルン湖（呼倫湖）

中国の東北地方で最大の湖。中国全土で見ても大きさは TOP5 に入る。フルンはモンゴル語で「カワウソ」を意味する単語で、かつてこの地に多くのカワウソが生息していたことに由来する。

(3) 名物料理

○モンゴル風ミルクティー

現地の生活とは切り離せない飲み物。ミルクティーといっても、塩味があるため、想像する味とギャップがある。

○羊の丸焼き

串焼きは中国全土で味わえるが、本場・内モンゴルでは丸焼きで食べることも多い。かわいそうな気がしないでもないが、現地のパーティーや結婚式で必ず出てくる一品。羊肉なくして内モンゴルのグルメは語れない。

○モンゴル風蒸し餃子

モンゴル風家庭料理。羊か牛のミンチ肉を厚い皮で包む。特に旧正月には必ず食卓に並ぶ。ご存知の通り、中国では「餃子+ご飯」の組み合わせはありえない。この厚い皮が主食で中身がおかずなのだ。

○モンゴル風火鍋

内モンゴルの火鍋は羊肉を使うことが特徴。この長い筒の形をした鍋は「モンゴル風」の鍋と紹介されるが、北京の人々はこの鍋を「老北京（北京の伝統）」のものだと主張している。

○奶片

牛乳の水分を抜き粉末状にした後、それを圧縮してできたお菓子。牛乳を加工してできたものなので、もちろん伊利実業集団や蒙牛乳業集団からも発売されている。

（４）文化

○ナーダム祭

毎年旧暦6月4日に草原で開催されている伝統的な祭。伝統民族楽器の馬頭琴の演奏や民族舞踊が披露される他、「男の三芸」と言われている相撲・競馬・弓術が開催されている。

○モンゴル文字

ウイグル文字を母体として形成された文字で、縦書きなのが特徴。モンゴルではソ連の影響でロシア語のキリル文字が使われるようになってからは、現在は主に内モンゴル自治区で使われている。

○ゲル

モンゴルの遊牧民が使用する伝統的な移動式住居。ゲルは円形で中心の柱によって支えられていて、2～3匹の羊のフェルトを屋根、壁に使っている。冬の寒い時期はオオカミの毛皮を張り防寒する。

○馬頭琴（モリンホール）

モンゴル民族の代表的な伝統管弦楽器。弓と弦は馬の毛が用いられ、胴は台形、棹（さお）の先端に馬の頭部の彫刻がある。馬頭琴の音色を耳にした人は、「幸運が訪れる」と言われており、舞台音楽以外にも結婚式や祝い事には欠かせないもの。

○民族衣装「デール」

モンゴル族の男女が着る民族衣装をデールという。部族、男女の違いにより何種類ものデールがある。男性は青や茶褐色、女性は赤・ピンク・緑・空色などを好んで身に着ける。

4. 指導者の略歴

内モンゴル自治区 書記 孫紹騁（そん・しょうてい）

1960年7月生まれ、山東省煙台市出身、漢族。

1996.03～1999.03	民生部災害救援司副司長
2001.06～2009.04	民生部優遇救済配置局長
2009.04～2012.08	民生部副部長
2012.08～2014.09	山東省副省長、国家国防動員委員会委員
2014.09～2016.11	山西省委常委、統一戦線部長
2016.11～2017.02	山西省委常委、副省長
2017.02～2017.05	民生部副部長、党組副書記
2017.05～2018.03	国土資源部党組書記、副部長
2018.03～2022.04	退役軍人事務部長、党組書記、 中央軍民融合発展委員会委員、同委員会弁公室副主任(兼務)
2022.04～2023.01	内モンゴル自治区党委書記
2023.01～現在	内モンゴル自治区党委書記、自治区人大常委会党組書記、主任

内モンゴル自治区 主任 王莉霞（おう・りか）

1964年6月生まれ、遼寧省朝陽市出身、モンゴル族。

2000.07～2005.12	陝西省統計局副局長
2005.12～2011.01	陝西省統計局党組書記、局長

2011.04～2013.01	陝西省銅川市委副書記、市長
2013.01～2016.10	陝西省副省長
2016.10～2016.11	内モンゴル自治区党委常委
2016.11～2019.08	内モンゴル自治区党委常委、 統一戦線工作部長
2019.08～2021.07	内モンゴル自治区党委常委、 フフホト市委書記
2021.07～2021.08	内モンゴル自治区党委副書記、 フフホト市委書記
2021.08～2021.09	内モンゴル自治区党委副書記、自治区副主席、代理主席、 政府党組書記、フフホト市委書記
2021.09～現在	内モンゴル自治区党委副書記、自治区主席、政府党組書記

【参考資料・参照先】

- ・内モンゴル自治区人民政府ホームページ
- ・2024 内モンゴル統計年鑑
- ・内モンゴル自治区 2024 年国民経済・社会発展統計公報
- ・一般財団法人自治体国際化協会ホームページ
- ・百度百科(内モンゴル自治区ページ他)